http://www.edu.pref.kagoshima.jp/　（通巻第１８３３号）

指導資料

鹿児島県総合教育センター

社　会　第126号

－中学校，特別支援学校対象－

平成27年４月発行

鹿児島県公立高等学校入学者選抜学力検査を生かした中学校社会科の授業改善

高等学校入学者選抜学力検査は，選抜としての要素とともに，義務教育９年間で教師が児童生徒にどれだけの学力を付けることができたかを計る指標の役割も担っている。

そこで，本稿では，平成26年度「鹿児島県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要」（以下，「概要」という。）における指摘を基に，学力検査を指導に生かした中学校社会科の授業改善を図る方策について述べる。

１　検査結果を生かした授業改善

鹿児島県教育委員会が毎年５月頃に発表する「概要」には，入学者選抜の状況，総得点分布，年度別推移，各教科の平均得点等が詳細に示されている。

教科の授業改善を図るためには，「各教科の問題と正答率等について」に示される分析結果や指摘を参考にすることができる。

社会科の出題は，地理的分野，歴史的分野，公民的分野をそれぞれ主とする問題に分かれており，正答率や正答（誤答）傾向等も分野別に示されている。検査結果を生かした授業改善には，これらの数値情報や分析結果を参考にしながら，各設問でどんな力が求められているのかを，授業者自身が分析することが重要である。

次は，平成26年度「概要」に示されている授業改善の指摘である。

《地理的分野》
授業では，教科書や資料を熟読させた上で，課題を考えるために必要な情報を選択させるだけではなく，選択した事項の関連や因果関係を考察させ，その考察結果を他者に分かりやすく説明させるなど，自分の考えを的確に表現させる工夫をしてほしい。

《歴史的分野》
授業では，基礎的・基本的な内容を理解させるとともに，各歴史的事象について課題を設定し，その課題に基づいて関連事項を幅広く整理させるなど，歴史的事象を広い視野で考察させる工夫をしてほしい。

《公民的分野》
授業では，現実に社会的な問題となっていることを取り上げ，日本の制度や経済に関する興味・関心を喚起させる場面を設定するとともに，適切な課題を設定し資料を考察させる中で，基礎的・基本的な内容について正確に理解させるような工夫をしてほしい。

（平成26年度「概要」p.13から抜粋　下線は筆者）

この指摘において，全ての分野に共通している点は，「課題を設定し，その解決を図るための考察をさせる（下線部）」ことにあると言える。

入学者選抜学力検査は，鹿児島学習定着度調査のように「基礎・基本」に関する問題，「思考・表現」に関する問題と分類して分析されてはいないが，社会科の評価の観点で分類し，分析することが可能である。

前述の指摘がなされる理由は，いわゆる「思考・判断・表現」の観点の設問についての県正答率が，他の観点よりも低い状況が見られることにある（「概要」p.13参照）。

２　検査問題を生かした授業改善

(1)　出題形式による分類・分析

検査問題の分析に当たっては，どのような形式で出題されているかを把握する必要がある。そのためには，出題形式の種類を分類し，捉えておくことが重要である。社会科の検査問題は，例えば，**資料１**に示す出題形式に分類できる。

以下，各出題形式について，平成26年度鹿児島県公立高等学校入学者選抜学力検査の問題を例にその特徴を述べる。

まず，「語句補充」と「語句解答」式の出題例を**資料２**に示す。両者は共に社会的事象に関する名称や用語等を語句で解答するものである。生徒は設問を読み，これまでに習得した知識を思い出して解答するため，この形式では一般に「社会的事象についての知識・理解」が問われる場合が多い。

次に，「選択」形式の中から「記号選択」の出題例を**資料３**に示す。これは［Ｘ］と［Ｙ］に入る最も適当なことばと数字を組み合わせ，語群**ア**～**エ**から選び記号で解答させる問題である。この問題では，習得した知識を思い出すだけでなく，地図中の情報を読み取って解答するため，「資料活用の技能」が問われていると判断される。

次に，「記述」形式の出題例を**資料４**に示す。これは，「イエズス会がアジアへの布教活動に力を入れたのはなぜか。」という問いに対する説明を求めている問題であり，「社会的な思考・判断・表現」の力を問う問題であると判断される。

このような「思考・判断・表現」をみる出題は近年増加しているが，生徒にとって難問である場合が多いため，言語活動を充実させるなどの授業改善が特に重要となる。

資料１　社会科の検査問題の分類（例）

出題形式	特　　徴
語句補充	設問中の［　　］に語句を補充する形式
語句解答	設問に直接解答する形式
記号選択	最適な解答を複数の語句から選択する形式
短文選択	最適な解答を短文から選択する形式
地図選択	地図上の位置を示す記号を選択する形式
資料選択	設問の趣旨に沿う資料を選択する形式
記　　述	設問に短文で解答する形式
作　　業	白地図上の適切な場所を塗りつぶすなど
そ の 他	（例）年代の並べ替えなど

資料２　「語句補充」,「語句解答」形式の出題例

「語句補充」の出題例（歴史的分野）

1853年，アメリカの使節［①］が浦賀に来航する。

問い　［①］にあてはまる最も適当な人名を書け。

「語句解答」の出題例（公民的分野）

富士山　世界遺産に登録

カンボジアで開かれたⓐ世界遺産委員会で決定し，国内17件目の登録となった。

問い　ⓐに関して，文化財保護などの活動を行っている国際連合の機関名を**カタカナ四字**で書け。

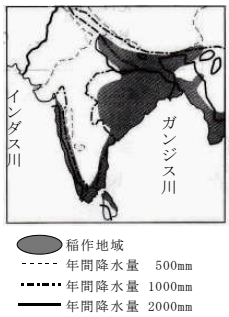
資料３　「記号選択」形式の出題例（地理的分野）

資料１について述べた次の文の［Ｘ］，［Ｙ］に適することばと数字の組合せはどれか。

南アジアで稲作が行われているのは，主に［Ｘ］川流域や沿岸部などの，およそ年降水量［Ｙ］mm以上の地域である。

ア（Ｘ　ガンジス　　Ｙ　1000）
イ（Ｘ　ガンジス　　Ｙ　500）
ウ（Ｘ　インダス　　Ｙ　1000）
エ（Ｘ　インダス　　Ｙ　500）

資料１　南アジアの稲作地域



資料４　「記述」形式の出題例（歴史的分野）

次は，ある中学生が時代ごとのできごとについてまとめたものである。次の問いに答えよ。

足利義政が将軍であったときに応仁の乱が始まり，戦乱は全国に広がった。その後，ヨーロッパ人が来航するようになると，鉄砲やⓐキリスト教が伝来した。

問い　ⓐに関して，**資料１**の人物が所属していたイエズス会が，アジアなどに宣教師を送り，布教活動に力を入れた目的について，**宗教改革**，**カトリック教会**ということばを使って書け。

資料１

(2)　評価の観点による分類・分析

中学校社会科の評価の観点を次に示す。

- 社会的事象への関心・意欲・態度
- 社会的な思考・判断・表現
- 資料活用の技能
- 社会的事象についての知識・理解

この中で，「社会的事象への関心・意欲・態度」については，紙面による調査では見取ることが難しいため，一般的には残りの３観点で出題されることが多い。

国立教育政策研究所が作成した「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」には，中学校社会科の評価の観点の趣旨が**資料５**のように示されている。

資料５　中学校社会科の評価の観点の趣旨

社会的な思考・判断・表現	社会的事象から課題を見いだし，社会的事象の意義や特色，相互の関連を多面的・多角的に考察し，社会の変化を踏まえ公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。
資料活用の技能	社会的事象に関する諸事象から有用な情報を適切に選択して，効果的に活用している。
社会的事象についての知識・理解	社会的事象の意義や特色，相互の関連を理解し，その知識を身に付けている。

※国立教育政策研究所「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」p.21から引用（下線は筆者）

この趣旨は学習指導要領を踏まえて作成されており，中学校社会科で身に付けさせるべき学力を具体的に示していることから，高等学校入学者選抜学力検査や鹿児島学習定着度調査の問題も，これに則して出題されていると考えられる。

したがって，検査問題を評価の観点で分類し，各問題がどのような力を求めているかを捉えるには，この趣旨に照らして判断すればよいということになる。

なお，(1)で述べたように，「語句補充」・「語句解答」の形式では，主に「知識・理解」の状況をみることが多く，「記述」形式では「思考・判断・表現」の状況をみることが多い。しかし，そのように単純に分類するのではなく，「評価の観点の趣旨」に照らして見極めることが重要である。

例えば，**資料６**に示すように「語句補充」形式でも「思考・判断・表現」の問題が考えられる。

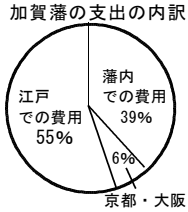
資料６　「思考・判断・表現」の出題例（歴史的分野）

次は，ある中学生が時代ごとのできごとについてまとめたものである。次の問いに答えよ。

３代将軍となった［　②　］は，ⓑ武家諸法度を改め，幕府の支配体制を確立した。また，貿易と海外の情報を幕府が独占する鎖国体制も完成した。

問い　ⓑに関して述べた次の文の［　X　］，［　Y　］に適する言葉を補い，これを完成させよ。ただし，［　Y　］は**図**を参考にすること。

図　加賀藩の支出の内訳



（加賀藩社会経済史の研究から作成）

大名が１年おきに自分の領地を離れて江戸に滞在することを義務づけられた制度を［　X　］という。江戸での滞在には［　Y　］ので，大名にとっては大きな負担となった。

この問題は「参勤交代」についての知識を問い，「参勤交代が大名にとって大きな負担となっていたのはなぜか。」という課題を解決するために，資料から必要な情報を読み取らせるとともに（資料活用の技能），読み取った情報を基に，課題について考察させ，その説明を求めるものであり，「思考・判断・表現」の力を問う問題であると言える。

このように，社会科の問題を「出題形式」や「評価の観点」で分類しておくと，検査問題を分析するためだけでなく，定期考査等において評価問題を作成する際にも，バランスのとれた出題を意識することができる。評価問題を意識することができれば，授業改善のポイントを捉えることができると思われる。

次ページ**資料７**に，社会科検査問題の分析の手順，及び平成26年度の本県公立高等学校入学者選抜検査の問題分析例（一部）を示す。

資料７　検査問題分析の手順及び問題分析例（一部）

【社会科検査問題の分析の手順】

① 大問，中問，小問数に合わせて，分析表の枠組みを作成する。
② 小問ごとに，問題内容を簡潔に書き出す。
③ 「出題形式」，「取り上げた資料」，「評価の観点」について，該当する欄に○印を付け，集計する。
④ 「概要」が発表されたら，小問ごとに県正答率を確認する。
※ 特に「思考・判断・表現」の力を見る設問に注目し，これを基に授業改善を図る。

【平成26年度鹿児島県公立高等学校入学者選抜学力検査　社会　問題分析例（一部）】

① 小問別の問題分析																								④
区分			②	③ 出題形式									③ 取り上げた資料							③評価の観点				県正答率(%)
大問	中問	小問	問題内容	語句補充	語句解答	記号選択	短文選択	地図選択	資料選択	記述	作業	その他	地図	写真	統計	資料	年表	その他	組合せ	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
1 地理	Ⅰ	1	カナダ	○									○			○			○				○	76.9
		2	(1) ＥＵの共通通貨名		○											○							○	91.1
			(2) プランテーション		○											○							○	63.8
		3	同一経度上の距離の計算			○										○						○	△	42.7
		4	南アジアの稲作地域			○							○			○			○			○	△	71.0
		5	世界の文化のようす				○									○							○	43.9
		6	アメリカの工業地域		○					○			○		○	○			○		○	△	△	48.1
3 公民	Ⅱ	3	為替相場			○									○	○			○			○	△	21.2
		4	金融の様子				○									○							○	36.7
		5	間接税		○											○							○	56.0
		6	(1) 日本の歳出	○											○	○			○				○	28.8
			(2) 公債金のはたらき							○					○	○			○		○	△	△	32.6
合計				10	11	6	7	1	1	8	1	1	12	5	7	28	7	0	14	0	8	6	31	53.9

※ この分析表は，短期研修講座等において受講者が研究協議し，作成したものの一部である。
※ 「県正答率(%)」は，平成26年度「概要」に示されている数値である。

(3) 検査問題の分類・分析から授業改善へ

検査結果や検査問題を授業改善に生かすためには，前述した「概要」の指摘にあるように，「課題を設定し，その解決を図るための考察をさせる」学習を日常の授業において充実させることが重要である。それは，生徒が検査問題等において「思考・判断・表現」の問題を解く際の思考過程と，「課題解決的な学習」の授業における思考過程は，同じであると考えられるからである。

例えば，前ページの**資料６**に示す問題で，いわゆる「課題解決的な学習」の授業中の一場面を次のように構想できる。

① 「江戸時代に参勤交代が制度化されたのはなぜか」などの学習課題を設定し，学習への関心・意欲を高める。

※ 課題の設定に当たっては，当教育センター指導資料　社会　第121号を参照

② 幕藩体制について理解させ，徳川家光が参勤交代を制度化したという基礎的・基本的な知識を習得させる（知識・理解）。
③ 資料「図」から，江戸と藩内における経費を比較させ，江戸経費の割合が高いことを読み取らせる（資料活用の技能）。
④ ②・③から，①の学習課題について考察させ，参勤交代の制度化の理由を説明させる（思考・判断・表現）。

※ 課題解決的な学習の進め方については，当教育センター指導資料　社会　第124号を参照

これまで述べてきたように，入学者選抜学力検査を，義務教育９年間で教師が生徒にどれだけの学力を付けることができたかを計る指標として捉え，検査結果や検査問題を授業改善に生かすよう努めたい。

－引用・参考文献－
○ 国立教育政策研究所『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校　社会）』平成23年11月
○ 鹿児島県教育委員会『鹿児島県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要』平成26年５月

（教科教育研修課）